

(※インタビュータイトル・クレジット)

中村聡史先生

「明確な誰かのためのソフトを作るのが楽しいんです」

聞き手：高須正和

(※見出し) 趣味は「観察」

—中村先生は普段、どんな感じで研究をされているのですか？

遊びながら……とか言ったら、怒られますかね（笑）。

—でも、それは理想です。

人をびっくりさせるものを作って、「おっ！」と思わletたいんです。

僕は外に飲みに行くのが大好きです。お酒自体も好きだし料理も好きだけど、それだけではなくて料理の盛り方を観察したり、店員さんを観察したり、そのお店のサービスを観察したりしています。いろんなものの観察をして、そこに「なにか面白いものがあるんじゃないか」と考えるのが僕にとっての「遊び」であり、そこから発見した何かが「研究」に生かされています。

—どういうところを見てるんですか？

人を観察するときの対象は、だいたい対話とか、視線です。

例えば京都などによくある小さなお店に行くと、お店の人との距離が近いので、視線がよくわかるんです。どこを見ているのか、なぜあの店員さんはお客さんのグラスに水がないことに気付いたのか、逆にこの店員さんはなぜ気付かないのか。それぞれの人が視線をどう動かしているのか、どういう目の配り方をしているのか。そういうところが人間観察で一番楽しいところです。

お客さんにしても、例えばみんなで宴会をしているときに、「なんかえらく気の利く人がいるな」と思って見ていたり、逆に気の利かない人を観察したり。そういう「観察」をすることが、僕にとってのフィールドワークになっています。

僕はお酒の味はよくわからないんですけど、「味」って場の雰囲気や、気持ちで変わるじゃないですか。そういうことに気付いて、自分で「わかった！」という瞬間がある。それが好きで、観察をしていますね。

あとは、自分で自分の観察をしています。「ああ、なぜあのときに自分はあれに気付かなかったのか」も観察だし、「どうやってこれに気付いたのか」も観察です。そういう問いかけの中に、今考えている問題をもっといいものにするきっかけがあるかもしれない。「悪いもの」にも、きっかけはあるんです。

(※見出し) 「人と一緒にソフトを作る」醍醐味

—先生の Web サイトも、「人に見せる」とか、「使ってもらう」ことをすごく意識した作り方をされているなと思います。

もう、ひたすら自分の問題解決に向かって進んでるだけなんです。かっこいいページは作れないので、見やすさを重視しています。

僕の場合、作っているソフトウェアはもともと自分のニーズなんです。

例えば「WeBox」（注 1）では、Web のデータをとにかく集めたかった。最初は「紙 2001」というソフトウェアでやってたんですけど、当時階層化ができず、サイトの保存もできなかった。「じゃあ、自分で作るしかないな」と思って、作り始めたんです。

作って公開したら、今度はユーザーさんからのレスポンスがあるのが面白くなりました。2ちゃんねるにスレッドが立って、そこで叩かれつつ持ちあげられつつも、ユーザーさんとの対話ができるようになった。それが自分の中でとても面白くて、もう「作ったものはどんどん公開していこう、どんどんフィードバックをもらおう」という方向にシフトしていきました。

最初の開発動機は自分の中であって、ソフトを作る行為のも内向きだったと思うんですよ。それを外に公開してみると、意外と受けたり、いろいろ言われたりする。でもそのおかげで、ソフトはどんどん改良されたり進化したりして、自分でも「なんだこれは！」と思うようなものになっちゃう（笑）。

もう一つ挙げると、「ttPage」（注 2）というテキストビューアがあったんです。僕はそれを好きで使ってたんだけど、文字コードの対応が少なかったので、僕が UTF-8 などに対応させて、「ttPage-plus」という名前で公開しました。そうしたら、それを他の人がさらに改良して「ttPage-UG」になって、また別の人が改良して「ttPage-plus」になって……と、繰り返し改良されていったのが面白かったですね。

—それはニコニコっぽい（笑）。

僕はほんとうに自分用に、ちょっと改良しただけなんですけど、それが他の人によってさらに進化していく過程に、「人と一緒に作っている」面白さがありました。

それからは、「ソフトウェアを作る→公開する→自分で使う→また公開する」というサイクルを、ずっと続けています。

僕は、自分の嫌なことをコンピュータにやらせたいんですよ（笑）。

—わかります（笑）。

嫌なことをコンピュータにやってもらって、しかもコンピュータがそれを愚直にしっかりとやってる様子を見てる。少しずつ着々となにかやっている……それこそデフラグ（ハードディスクの最適化）が進んでいるのを見てるのが楽しい、みたいな。

—「やってる、やってる」という感じですね。

（※見出し）文系の人のためのソフト開発

今、僕は文学部や心理学の人とも一緒に研究をやっているんですが、データベースひとつ作るのにも、文学部の人たちは文献を全部引っ張り出してきて、ひたすら手作業でまとめようとされるんですね。

国会の議事録の分析を今やってるんですけど、最初に先方が、「僕が国会議事録のサイトにアクセスして、Web ページを保存していくので、それを処理してください」と言うんです。いや、それは……（笑）

——クローラー（注3）を作ったほうが早いんですね。

なので、この前ひたすら国会の議事録を全部収集してデータベースに放り込むプログラムをちょっと作って動かしたら、その人が見て「あー、こんなに簡単にできるんですね」と言われる。

「そうなんです。せめて SQL と、あとは正規表現を使えるようになっておくと、便利ですよ」という話はしたんですけど、なかなかその世界に入っていくのは難しいみたいです。

——文系の人たちの研究グループの中に、コンピュータを使える人が一人入るだけでも、断然効率が上がりますよね。

そうですね。実際にいろんなことができる必要は僕はないと思うんですけど、やっぱり他の分野でどういうことをやっているか、この分野の人と一緒にやるとこういうことができるのか、自分の分野の知識だけだと難しいことが、実をいうと簡単にできるんだということを知っておくのは、重要ですね。文学部の人だって、正規表現を使うとすごく簡単に解決できるということはあったりします。

（※見出し）たったひとりのためにソフトを作る

最近、嫁さんのためだけに家計簿ソフトを作ってるんです。それがもう楽しくて。

——どんなのですか？

いやもう普通に、シンプルな Web インターフェースで、金額を入力すると収支を合わせてくれたり、貯金の残高なんかと合算して、今家計全体がプラスなのかマイナスなのかゼロなのか、入力漏れがないかなどをチェックするものになっています。

今、「クレジットカードも管理できるようにしてほしい」という新たなニーズがでてきて、「これも解決しないといけないな」という問題にひとつひとつ対応しています。

ユーザーは嫁さんひとりしかなくて、僕自身もユーザーじゃない。不思議なソフトウェアを今作ってて、これも面白い。

一般的なソフトウェアを作る楽しみとは、なんか全然別の方のものなんだろうけども、「あ、こういう楽しみ方もあるんだな」と気付きましたね。

——それはソフトの動く環境やら何やらを、一から考えるわけですよね。

考えます。

最初はエクセルのマクロで作ろうとしてたんですけど、問題だったのは、いくつかの「窓」があることです。ノートパソコンだったり、iPad だったり、iPod touch だったり、携帯電話だったり。うちの嫁さんが使ってるのは普通の携帯電話で、iPad を渡してもいるんですけど、エクセルのマクロでは、データの共有がどうしてもうまくいかない。

なのでマクロは諦めて、次にすごくオーバースペックなソフトを設計して、「これ、どう考えてもやり過ぎだな」と却下して（笑）。もう PHP でシンプルに作っちゃおうと決めて、とりあえず作って様子をみながら……というふうな感じで作ってます。

—なんで自分で作ろうと思ったんですか？

家計簿ソフトって、いっぱいあるじゃないですか。すでにあるものを調べただけで、結局自分のニーズをきれいに、ぴったり満たすものってないんです。どのソフトを選んでも、なにかしら我慢しながら使っていけないといけない。

例えばグーグルだって便利ですけど、みんな我慢しながら使ってますよね。そこが自分としてはやっぱり耐えられないんです。既存のソフトを入れてみて、嫁さんに「これ使にくい」って言われたときに、それが悔しくて「わかった、もう俺が用意するよ」ということになって。

—たしかにそうですね。家計簿ソフトって細かすぎるか大ざっぱすぎるかで、いいものはあんまりない気がします。

大根一本から入力するような、ありますね。しかもどこで買ったかとか、そこまで要らんだらと（笑）。

なので今作っている家計簿ですが、普通にシンプルなインターフェースにしています。あとは統計処理をしたり、月ごとに集計した結果を見たりという機能を、嫁さんのニーズをベースにしてどんどん作っています。日付を入力するのに、携帯電話からだて入力がめんどくさいので、カレンダーを表示して選択するだけでいいようにしましょう、とか。

こういう「ニーズ」というか、自分ではなく人のためにソフトウェアを作ってみることも意外に楽しいんだな、と思いました。

（※見出し）誰もが「自分のソフト」を作れるような世界に

僕はユニバーサルなもの、全員にぴったりあてはまって使えるものは存在しないと思っています。パーソナルファブリケーションの流れはとていいと思うんですが、ソフトウェアでもああいった感じで自分専用のものづくりができればいいなという気がします。

「ここにあるときれい」とか「かわいい」とか「面白い」と言って使える何かを、もっと手軽に、シンプルに作るまたはオーダーメイドできて、という世界ができるといいなと思います。世の中にはプログラムのできない人が山ほどいるわけなんですけど、その人たちも「これと、これとこれ」と言って選ぶと、ほんとに自分にとって便利なものを作ることができればいいな、と。

ニコニコ動画も、簡単にコンテンツを作って、アップロードして、みんなが簡単に観られますよね。もっとみんなが手軽に自分専用のぴったり使えるソフトを作ったり、誰かの

ためにプレゼントしたり、ということができるような仕組みになるといいですね。

(※画像キャプション、入る位置はおまかせします)

desktop.jpg.....机の上には PC が 2 台、そして Mac が 1 台あるだけ

kakeibo.jpg.....奥さんのために作っている家計簿ソフト。「具体的な数字は秘密」と、撮影はここが限界

nafuda1 または nafuda2.jpg.....参加した学会・イベントの名札もコレクション

(注 1) Web コンテンツの取り込みツール。 <http://webox.biz/software/webox/>

(注 2) <http://www2.biglobe.ne.jp/sota/ttpage.html>

(注 3) Web 上の文書や画像などを周期的に取得し、自動的にデータベース化するプログラム。「ボット」「スパイダー」「ロボット」などとも呼ばれる。